

ポリテクセンター広島 利用者の声

山口県周防大島にある大島商船高等専門学校でお話をお伺いしました。



所属長の声

独立行政法人国立高等専門学校機構

・大島商船高等専門学校 技術支援センター長 増山 新二 様

大島商船高専は、山口県東部の周防大島にあり、約700名の学生が勉学と課外活動に熱心に取り組んでいる活気のある学校です。中学校卒業後に入学する本科（5年制。商船学科は5年6ヶ月制）に商船学科、電子機械工学科、情報工学科の3学科と、本科卒業後に入学する専攻科（2年制）に海洋交通システム学専攻と電子・情報システム工学専攻の2専攻を擁する高等教育機関です。専門分野の基礎理論と、実験実習を通じて実務的な実践技術を身に付けることができます。（<http://www.oshima-k.ac.jp/>）

本校では、実験実習や卒業研究における技術支援に携わる技術職員の専門的技術力を向上させ、より良い教育を実践するために、常々、技術職員への研修を勧めています。その取組の一環として、5年前からポリテクセンター広島も利用させて頂いております。一人1台の実習機器や実学一体の職業訓練は、本校の教育方針と似た部分もあり、体系的な訓練の流れや専門的な知識はもとより、本校で実習を行う際の実習課題の相談や、指導のポイントなどの質問にも的確にお答え頂きました。講習日程につきましても若干無理をお願いしたのですが、本校の都合を考慮した上で講習日を決定して頂き、受講した技術職員からの評判も上々です。

今後とも、技術力の向上や、実習における指導法の違いなどを学ぶ為、個々の技術職員の要望にあわせた研修を実施する上で、ポリテクセンターも利用させて頂くことになると思っております。その時には日程等でこちらの都合に合わせた研修の実施をお願いすることもあるかもしれませんが、何卒よろしくお願い致します。



利用者の声

- ・第一技術室（船舶部門）技術専門職員 小型実習船 すばる船長
砂田 智裕 様
- ・第二技術室（機械・熱機関、電気・電子部門）技術専門職員
堀 義則 様

本校では、学生の実験実習や研究装置の作成、さらにロボットコンテストの支援などに溶接、機械加工といった技術力が必要となっております。そのため、職員の技術力向上のために充実した施設設備がある研修機関を探したところ、当校から日帰り可能なポリテクセンター広島を利用するようになりました。最近では、平成25年度に「被覆アーク溶接実践技術」を2名で、平成26年度に「機械設計技術者のための旋盤実践技術」を5名で受講したところです。今後も、ポリテクセンター広島をはじめ、九州ポリテクカレッジなど他の訓練施設も活用しながら、今後の実習や業務依頼への対応に役に立てるよう技術力を高めていきたいと考えています。



堀技術職員（左側）と砂田技術職員（右側）

* 砂田さんはポリテクセンター広島
「光通信施工技術科」（H16.1～6月）
の修了生でもいらっしゃいます。